

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年3月1日(2018.3.1)

【公開番号】特開2017-225474(P2017-225474A)

【公開日】平成29年12月28日(2017.12.28)

【年通号数】公開・登録公報2017-050

【出願番号】特願2016-121339(P2016-121339)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月17日(2018.1.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行なうことが可能な遊技機であって、

変動表示に対応する特定表示を表示可能な特定表示手段と、

少なくとも前記特定表示の一部の視認が困難となる所定演出を実行可能な所定演出実行手段と、

前記特定表示の表示態様の変化を示唆する示唆演出として、第 1 示唆演出と前記第 1 示唆演出とは異なる第 2 示唆演出とのうち少なくとも一方を、前記特定表示の表示態様に変化する前に実行可能な示唆演出実行手段と

を備え、

前記第 2 示唆演出は、前記第 1 示唆演出に比べて前記特定表示の表示態様に変化する場合における変化後の前記特定表示の表示態様が認識しやすいものであり、

前記所定演出が実行されるときは前記所定演出が実行されないときに比べて前記第 2 示唆演出が実行されにくく、

前記特定表示は、前記所定演出の実行が終了した後に変化可能であることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

(A) 上記目的を達成するため、本発明の一態様による遊技機は、遊技を行なうことが可能な遊技機であって、変動表示に対応する特定表示を表示可能な特定表示手段と、少なくとも前記特定表示の一部の視認が困難となる所定演出を実行可能な所定演出実行手段と、

前記特定表示の表示態様の変化を示唆する示唆演出として、第 1 示唆演出と前記第 1 示唆演出とは異なる第 2 示唆演出とのうち少なくとも一方を、前記特定表示の表示態様に変化する前に実行可能な示唆演出実行手段とを備え、前記第 2 示唆演出は、前記第 1 示唆演出に比べて前記特定表示の表示態様に変化する場合における変化後の前記特定表示の表示態様が認識しやすいものであり、前記所定演出が実行されるときは前記所定演出が実行され

ないときに比べて前記第 2 示唆演出が実行されにくく、前記特定表示は、前記所定演出の実行が終了した後に変化可能である。

( 1 ) 上記目的を達成するため、他の態様による遊技機は、遊技を行なうことが可能な遊技機 ( 例えば、遊技機 1 等 ) であって、変動表示 ( 例えば、飾り図柄の変動表示等 ) に対応する特定表示 ( 例えば、保留表示、アクティブ表示等 ) を表示可能な特定表示手段 ( 例えば、始動入賞記憶表示エリア 5 H に保留表示を表示させるステップ S 1 5 0 の入賞時演出決定処理、アクティブ表示エリア A H A にアクティブ表示を表示させるステップ S 1 7 2 の変動表示中演出処理等 ) と、少なくとも前記特定表示の一部の視認が困難となる所定演出 ( 例えば、ステップ S 1 7 1 の変動表示開始設定処理において図 2 5 ( A ) に示すような決定割合で実行有無が決定される隠ぺい演出 ( 演出態様は例えば図 2 8 参照 ) 等 ) を実行可能な所定演出実行手段 ( 例えば、ステップ S 1 7 2 の変動表示中演出処理等 ) と、前記特定表示の表示態様の变化を示唆する示唆演出として、第 1 示唆演出 ( 例えば、ステップ S 1 7 1 の変動表示開始設定処理において図 2 5 ( B ) に示すような決定割合で実行有無が決定される大キャラ演出 ( 演出態様は例えば図 2 6 参照 ) 等 ) と前記第 1 示唆演出とは異なる第 2 示唆演出 ( 例えば、ステップ S 1 7 1 の変動表示開始設定処理において図 2 5 ( B ) に示すような決定割合で実行有無が決定される小キャラ演出 ( 演出態様は例えば図 2 7 参照 ) 等 ) とのうち少なくとも一方を、前記特定表示の表示態様が変化する前に実行可能な示唆演出実行手段 ( 例えば、ステップ S 1 7 2 の変動表示中演出処理等 ) とを備え、前記第 2 示唆演出は、前記第 1 示唆演出に比べて前記特定表示の表示態様が変化する場合における変化後の前記特定表示の表示態様が認識しやすいものであり ( 例えば、図 2 7 に示した小キャラ演出は、図 2 6 に示した大キャラ演出に比べて保留表示の表示態様が変化する場合における変化後の保留表示の表示態様が認識しやすいものであり ) 、前記所定演出が実行されているときは前記所定演出が実行されていないときに比べて前記第 2 示唆演出が実行されにくい ( 例えば、図 2 5 ( B ) に示すように、隠ぺい演出が実行されているときは隠ぺい演出が実行されていないときに比べて小キャラ演出が実行されにくい。図 2 5 ( B ) によれば、隠ぺい演出が実行されていないときに小キャラ演出が実行される割合は 1 5 % であるのに対し、隠ぺい演出が実行されているときに小キャラ演出が実行される割合は 5 % である。 ) 。